

マイブーム文化学

Culture Now

学生が 祇園祭の運営に 参加できるとして、 本当？

堤 京都文化学科では京都の街で学ぶ授業が多く、日本の伝統工芸に直に触れ、日本を代表する職人など一流の方々からお話を聞けることが楽しいです。

加野 「京都文化フィールド演習」という授業では、祇園祭の運営にも参加したんですよ。祇園祭の運営に参加するのは初めての体験でしたが、祭りを盛り上げようとする地域の方々の熱気がすごかったです。装飾もきれいでした。こうした文化が千年を超えて継承される京都の街ってすごいですね。わざわざ海外から見に来る方がいらつしやることも納得できました。

加野 そもそも堤さんは、どうして京都文化学科で日本文化を学ぼうと思ったのですか？

堤 高校で留学し、自国の文化や価値観を外国の方々にちゃんと伝えることができず、悔しい思いをしたからです。なので大学では、日本文化を深く学び、英語で発信していきたいと考えました。将来は観光の仕事に興味があり、日本の素晴らしさを世界の人々へ紹介できたらと思っています。

加野 「自国のことを知らない」と認識している点で、すでにみんなより一歩リードしていると思います。英語だけ勉強していても、いざ海外の人と話そうとすると、話す中身がありませんよね。京都文化学科では日本文化とともに英語も勉強できるので、文化を通じて世界中の人とのコミュニケーションが広がります。

堤 2年次からは、能や狂言、日本庭園などで、英語で京都文化について学ぶ授業も始まるので楽しみです。在学中に留学して、世界各国の留学生に日本文化の素晴らしさを今度はしっかり伝えたいと思います。

加野 留学は、日本の文化を外から見つめるいい機会になるでしょう。実は、敬語をはじめ、言葉そのものにも、その国や地域の文化が反映されています。言語は「情報」を伝えるだけでなく、相手への「気遣い」も伝えるものです。言語を学ぶ際、その社会の根底にある文化も理解すればコミュニケーションも変わってくると思いますよ。



文化学部 京都文化学科1年
堤 菜央さん

文化学部 京都文化学科
加野 まきみ 准教授

日本を知るには、 海外を知ることが 大切?

益谷 私は将来、英語を使って仕事をしたいと思っています。京都文化学科で学んだ知識も活かしたいです。

ヒューバート 京都文化学科は、日本の文化とともに、海外の文化についても学べるプログラムです。文化を学ぶ上で大切にしたいのは、「比較」する視点。海外を知ること、自分の国についての理解も深まります。自国と海外の考え方をとらえ、理解すれば、グローバルなビジネスに関わる上でも役立ちますね。益谷さんは、英語の授業を積極的に履修していて頑張っていると思いますよ。



益谷 GJP(グローバルジャパンプログラム)を履修しています。ヒューバート先生が薦めてくださった「Considering American Society」の授業も毎回楽しいです。外国人留学生とともに受講する、英語オンリーの授業で、最初は留学生のなかで授業についていけない不安でしたが、でもアメリカの音楽をテーマにしていることもあり、海外の留学生と会話できるいい機会になっています。

ヒューバート 大学では留学も目標にしていたよね。
益谷 半年以上の長期留学をめざしています。まわりに日本人がいない環境に自分を置いて、英語漬けの日々を送りたいんです。

ヒューバート 留学すると、語学の向上はもちろん、人間的成長も大きいです。自立心が芽生え、人頼みにせず、どんな問題にも自分から積極的に行動するようになります。

益谷 英語は、あくまでもツールだと思っています。留学では、異文化の人々との交流を大切にしていきたいです。

ヒューバート そのとおりですね。大学では興味あるテーマを深めていくことも大切にしてください。現在はどんなテーマに興味がありますか。

益谷 京都の伝統文化です。特に日本の伝統工芸に興味があります。そこには、日本人の精神が大きく関係していると思うので、もっと学んでいきたいと思っています。

ヒューバート GOOD LUCK! (頑張ってください！)

文化学部 京都文化学科
ヒューバート ラッセル
ポール 准教授

文化学部 京都文化学科1年
益谷 祈さん

